

## 夢をつばさに乗せて

校長 畠山 真

「ゴー、ゴー、ゴーン。」

飛行機が、朝のしじまの中を空に向かって飛び立っていきます。雲の切れ間から 2019 年(平成 31 年)の初日が顔を出し始めました。

早朝の厳寒の中、新しい年の幕開けの初日の出を見に、羽田国際空港へ行ってきました。羽田空港国際線ターミナルのデッキには、初日の出を見ようと多くの人たちが集まって来て、太陽が現れる瞬間を今か今かと待ち望んでいました。現れた時は、新年を祝う喜びの声があちこちから聞こえてきました。

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

今年は「亥(い)」年で、平成最後にふさわしく十二支の締めくくりの十二番目の干支(えと)になります。猪(いのしし)は、猪突猛進とよく言われますが、勢いがよく勇気と躍進の象徴とも言われます。次世代への新しい生命の内蔵を表現するとも言われ、まさしく今年最後の平成の時代に終わりを告げ、新しい年への飛躍をうながす年になるのだらうと期待できます。

さて、今年はラグビーのワールドカップが日本で開催されます。横浜でも準決勝、決勝が日産スタジアムで行われ、ラグビーを見るのが好きな私も今から楽しみにしています。さらに、来年には東京でオリンピック・パラリンピックが行われ、横浜でも野球が開催されます。今の美小の子どもたちが選手として出場するのは厳しいかもしれませんが、子どもたちにとって日本で実施されるオリンピックは、きっと思い出に残ると思います。私も、当時小学生の低学年だった時、1964 年(昭和 39 年)に行われた東京オリンピックを覚えています。日本の選手が、体操やレスリング、柔道、バレーボール等で活躍したことや、エチオピアのアベベ選手が裸足でマラソンを走り優勝したことも覚えています。心に残ったことは長い間を経ても、記憶に残っているものだと思います。子どもたちには、ぜひ夢をもって生活して欲しいと思います。

元日の新聞に、今後「国境を越えて」スポーツの交流が図られていくだろうと出ていました。日本人、外国人を問わず国境を越えて、スポーツの世界で互いに切磋琢磨して技を競い合い高めていくことはとても大切なことだと思います。現在日本の各スポーツのチームの中でも、日本人と外国人が協力してプレーしています。特にラグビーは、トップリーグや大学でも多くの外国人選手が活躍しています。2 日に行われた大学選手権の準決勝が秩父宮ラグビー場で行われ、天理大学が帝京大学の 10 連覇を阻んで勝ちました。勝因は、天理の選手のボールに対する集散の速さや勝利への執念だと思いました。もう一つ、外国人留学生と日本の選手が一体となり、必死にプレーしたのが勝因だと思いました。いずれにしても、これからは国境を越えてプレーすることが重要だと思います。

平成 31 年がこの 4 月で終わり、5 月から新しい年号になります。節目の年、子どもたちには夢をつばさに乗せて大きく羽ばたいてほしいと願っています。